

民生環境水道常任委員会行政視察報告書

小林 克之

○静岡県磐田市

磐田市クリーンセンターの概要について

【所見】

磐田市クリーンセンターは平成23年4月に竣工され、112トンの焼却炉2炉で1日に224トンの焼却処理能力を有した施設である。

施設としては環境に十分配慮したごみ焼却施設であり、集められたごみは自動燃焼制御により、焼却炉内で高温完全燃焼し、ダイオキシン類の発生抑制を行っている。焼却炉で完全燃焼され排出された灰は、灰溶融の前処理設備を通して灰溶融炉に送られ溶融される。溶融された灰はスラグとメタルになり再資源化される。焼却炉で燃焼できない金属や溶融不適物は、それぞれの金属ピットや不適物ピットに蓄積され最終処分場へ搬送される。また、焼却飛灰や溶融飛灰もバグフィルターや溶融バグフィルタで捕集され、ダスト処理設備を通して最終処分場へ搬送される。ごみ焼却にて発生した排ガスは熱回収された後、バグフィルタで煤塵やダイオキシン類を含む有害物質等を除去し、煙突から大気中に排出される。また、灰溶融炉で発生した排ガスも溶融バグフィルタにて処理され、煙突から排出される。さらに、煙突から排出される前には、触媒反応塔を設置しダイオキシン類等の排ガス基準を厳しく設定して、有害物質の除去を行っているとのことである。

以上のような内容で、ごみの焼却処理を行っている施設であり、地域の環境や公害防止に重点を置いている様子が見えた。建設にあたっては、地元対策事業として地元の自治会長や役員で構成された対策委員会と年間6回の会合を開き、周辺環境整備として地元の要望を取りまとめたとのことである。要望内容は道路の舗装、排水路整備がほとんどとのことであった。

磐田市議会においては、このクリーンセンターをつくるにあたって、平成18年に11名の委員で、ごみ処理施設特別委員会を立ち上げ約1年間、焼却炉の方式や、最終処分場、施設の運営方法など研究し、話し合ったようである。

足利市においても、老朽化したクリーンセンターや小俣最終処分場の問題があり、市、地域、議会など多くの意見や要望を話し合い、現在も未来も視野に入れた取り組みの必要性を感じた視察であった。

○静岡県袋井市

健康チャレンジ！！すまいる運動「健康マイレージ制度」について

【所見】

袋井市は人口約8万7,000人の都市であり、頂いた健康マイレージ制度の資料には、「日本一健康文化都市を目指して」とある。平成5年11月に日本一健康文化都市宣言を表明し、平成22年5月に新市として同宣言を表明しているとのことである。宣言の内容は、「青く輝く海原と緑あふれる大地に抱かれ、先人によって築かれたふるさとふくろいを、わたしたちは受け継いできました。この恵まれた地域で、心やからだの健康を増進することはもとより、健康生活を支える自然を守り、地域社会を充実させていくことも、わたしたちみんなの願いです。わたしたちは、健康意識を高くもち、一人ひとりが「心の健康」、「からだの健康」、「まちの健康」を追求し、すべての人びとを幸せにしていきます。わたしたち袋井市民は、住んでよかったという喜びを実感できるまちを目指し、ここに袋井市を日本一健康文化都市にすることを宣言します。」とあり、袋井市総合計画でも「まちの将来像」として掲げているとのことである。この宣言を実現するための取り組みの一つとして、この健康マイレージ制度を進めている。

平成27年度の健康増進事業の目標には、「生活習慣病の予防・健康寿命の延伸と将来的な医療費削減」と記されている。介護費用も含めた社会保障費の削減も目標の範囲であると思う。健康に関しての市民の意識は高いようで、健康診断の受診率は50%以上で県内1位である。足利市の受診率は30%なので、健康づくり環境の整備が進んでいると感じた。

健康マイレージ制度については、平成19年度から始まりことしで9年目の取り組みになっている。参加者数については年々ふえているが、中学生以下の若い参加者が約85%と多く、中高年の参加者をもっとふやせたらと思う。健康に関しての意識が高い地域でもあるので、不可能ではないと考える。この制度は実際に健康づくりに参加し、習慣にするのがねらいとのことである。「運動をしよう」「ウォーキングをしよう」と思っているが、なかなか実行できないものでもある。平成26年度から実施された「お友達紹介ボーナス」や平成27年度からの「健康受診ボーナス」などのボーナスポイントなど、新しい施策を取り入れて参加するきっかけづくりにして、さらに参加者の増加が図れればと期待する取り組みであった。

健康な市民が健康な街を築いていく。そんな市民の心と工夫した取り組みが目立った視察であった。